

「本格的IoT時代をにらんだ電波分野の研究者ネットワーク」第6回意見交換会

《愛媛県における電波の利活用事例の考察》

四国総合通信局(局長:野水 学)は、令和2年8月21日(金)、愛媛県松山市の同庁舎にて「本格的IoT時代をにらんだ電波分野の研究者ネットワーク」の第6回目の意見交換会を開催しました。本ネットワークは、四国管内で電波分野の研究に取り組む研究者の交流及び意見交換の場を設けるとともに、電波に関する技術情報や利活用・実証実験の事例も共有することにより、研究者をサポートすることを目的に立ち上げたもので、管内の4大学、5高等専門学校と管外の2大学から18名の研究者が参加しています。

第6回目の意見交換のテーマは、「愛媛県における電波の利活用・研究開発」とし、合計30名(本ネットワーク参加研究者14名(うちリモート参加者10名)、発表者6名等)が出席して、活発な意見交換と情報共有が行われました。会議の概要は次のとおりです。

【ネットワーク参加研究者による最新研究開発の紹介1】

香川高等専門学校電子システム工学科の三崎教授から「呼吸センサを使用した見守りシステム」というテーマで、呼吸センサ、加速度センサ等とAI及びLPWAを組み合わせ、危険作業に従事する者を適切に見守るシステムに関する研究開発の取組、及び同システムを新型コロナウイルス感染症患者へ応用することの有効性についての紹介が行われました。

【ネットワーク参加研究者による最新研究開発の紹介2】

高知工業高等専門学校の今井名誉教授から「LoRaネットによる防災避難所情報共有システムと超小型衛星によるLoRa通信について」というテーマで、大規模災害発生時における防災対策本部と津波避難タワー等多数の避難所間における避難者情報のやり取りにLoRaネットの活用が有効である旨の紹介が行われました。併せて、現在開発中の超小型衛星によるLoRa通信に関する紹介もなされました。

【久万高原町における電波の利活用事例の紹介】

久万高原町の田村情報政策推進室長から、同町の主要産業である林業の作業エリアの多くが携帯電話圏外であることから通信手段確保のためLPWA通信網の整備を行ったこと、また独自の高出力LPWA通信規格を展開する株式会社フォレストシーの藤本氏からは同町に整備したシステムの特長や他地域での導入事例の紹介がありました。

【愛媛県における電波の利活用・研究開発事例の紹介1】

えひめAI・IoT推進コンソーシアムの取組事例として、愛媛県経済労働部産業支援局産業創出課の重松係長から、現在本コンソーシアムに設置している2つの研究会(ビッグデータ活用WG及び技術開発WG)における研究開発の取組や活動実績等の紹介がありました。

【愛媛県における電波の利活用・研究開発事例の紹介2】

令和元年度産学官共同研究として、愛媛県産業技術研究所において取り組んだ「LPWA通信による水位監視システムの開発」の実験結果及び今後の課題等について、同研究所技術開発部の秋元主任研究員から紹介がありました。

【国立研究開発法人情報通信研究機構による情報提供】

NICT総合テストベッド研究開発推進センターの横山専門調査員から、スマートIoT推進フォーラムテストベッド分科会におけるテストベッド活用研究会の取組について紹介がありました。

四国総合通信局では、産学官の共同研究や社会実装を見据え、民間企業を含めた地域課題解決に資する研究開発についての意見交換会を引き続き開催してまいります。



＜意見交換会の様子＞



＜研究開発の紹介の様子＞

【お問い合わせ先】

無線通信部 電波利用企画課
電話:089-936-5071